

淀川が氾濫する!?

避難はいつ、

どこに？

チャートで
チェック

もし、淀川が氾濫するほどの大規模災害が高槻で発生しそうなとき、あなたはいつ、どこに避難しますか？そのときにはすでに芥川や女瀬川、檜尾川などの氾濫や、土砂災害など、複合的な災害が発生している可能性があります。いざというとき、迷わないように、事前に取りるべき行動を確認しておきましょう。

※このチャートでは、日本のはるか南で台風が発生・北上し、約1週間後に高槻を含む近畿地方に大規模水害・土砂災害が発生する危険が高まったと想定。ただし実際の災害状況とは異なりますので、必ず気象情報を確認し、早めの行動を取るようしてください

ID 116687

「避難」とは難を避ける行動のこと。避難所に行くことだけが避難ではありません。今号で同時配布しているリーフレット「淀川の氾濫に備えて」を合わせてご覧いただくと、もっと理解が深まりますよ。ぜひ自宅に保管して、定期的を確認してください



危機管理室 黒田政時さん

問 危機管理室 / TEL674-7314

事前に確認

平常時

淀川氾濫の5~3日前

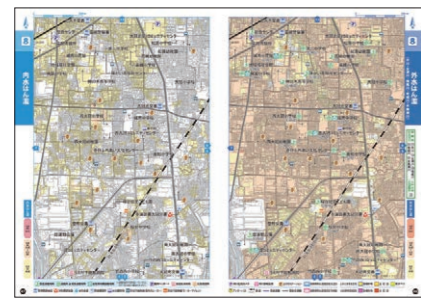
CHECK1 ID 004004

ハザードマップを確認
自宅の災害リスクはどう？

自宅の災害リスクをハザードマップで調べてください。特に外水氾濫や土砂災害の恐れがある場合は、安全な場所への避難が必要です。



※災害時は停電やアクセス集中でインターネットが使えない可能性があるため、できるだけ紙で保管を。手元にない人は市ホームページからダウンロードまたは下水河川企画課 / TEL674-7432へ



浸水の恐れのない地域で
むやみな屋外避難は危険

台風接近時は、暴風に気を付けましょう。看板などの飛来物で、けがをする恐れもあり、外に出ることがかえって危険な場合があります。気象状況に応じて、適切な避難行動を取ってください。

※土砂災害特別警戒区域内の住宅を対象に、「移転」と「補強」の一部補助があります。(40ページに関連記事)

CHECK2 ID 077353

避難先の確認や備蓄品の確認は
できていますか？

避難先までのルートを確認してください。また非常持ち出し品や備蓄品を確認してください。



CHECK3 ID 004007

自宅周辺の水害対策は
できていますか？

自宅の被害を軽減するため、事前に窓の補強や土のうの準備、側溝の掃除を行ってください。



CHECK4

家族や近隣に
要配慮者がいますか？

高齢者、障がい者、妊婦、幼い子どもなどは特に早めの避難が必要です。家族や近隣にいるときは声掛けをしてください。



避難行動

淀川氾濫の3~1日前

CASE1 3~2日前

早めの避難行動を開始する

淀川氾濫の可能性が高まれば、市から「大規模水害・土砂災害のおそれ」を発表。親戚や知人宅、ホテルなどへ早めの分散避難、または市が開設する避難所へ避難を検討してください。



⇒12ページへ

CASE3 2~1日前

条件が合えば在宅避難も選択肢に

一定の条件が整えば在宅避難も可能です。長期間孤立する恐れがあり、対応できる備えが必要になります。



⇒14ページへ

CASE2 2~1日前

避難指示で
危険な場所から全員避難

市から警戒レベル4「避難指示」が発令されたら、徒歩か市営バスによる避難者輸送で避難を開始してください。



⇒13ページへ

CASE4 1日前~最中

逃げ遅れたら
できるだけ高い所へ

淀川の氾濫が迫り、逃げ遅れた場合など、とにかく命を守るためにできるだけ高い所へ避難してください。



⇒15ページへ

CASE1

安全な場所へ**分散**して避難
親戚や知人宅、ホテルなど

危険な場所から
早めに離れる



親戚や知人宅へ

一番安心なのは、浸水の恐れのない地域に住む家族や親戚、知人宅に身を寄せること。ただし、避難が長期にわたる可能性もあります。貸し借りが難しい物はできるだけ持っていくようにしましょう。

ホテルや旅館へ



浸水の恐れのない場所にあるホテルや旅館など、宿泊施設に避難することも選択肢の一つ（自己負担が必要）。施設のある地域のハザードマップも確認し、安全であることを確かめておきましょう。複数の候補をあらかじめ調べておくと安心です。

風雨が強くなる前に早めの行動



避難をすると決めたら、早めの行動が最も重要です。避難するのは時間がかかります。必要な物品をまとめ、早めに出発しましょう。移動は電車やバスなどの公共交通機関が運休する前に。

Advice

要配慮者がいる場合は
より早めの行動を意識して



自力での避難が困難で、避難に時間のかかる高齢者や障がい者などは、早めに避難を開始してください。また、いざというときに協力し合えるよう、日頃から近隣の人とコミュニケーションを取り「顔の見える関係」を作っておきましょう。

① 早めに準備・行動

とっさに行動するのは難しいもの。気象情報などを確認し早めに準備してください。遅れるほど危険が高まります。家族や近隣の人にも声を掛け合い、行動を始めてください。

② 選択肢を限定しない

避難先を決めておくことは重要ですが、それが難しい可能性もあります。複数の選択肢を持っておきましょう。

CASE2

開設する**避難所**へ
徒歩か公共交通機関で

車はNG
経路も注意

持ち出しは最小限にして
原則徒歩で避難

市が指定している避難所は浸水の恐れのない地域で開設されるため、淀川氾濫の恐れがある場合、南部の地域から多くの人が避難することが予想されます。避難時には必ず徒歩か市営バスによる避難者輸送を利用して避難してください。

また持ち出し袋が重たいと、移動が大変です。借りられないものを中心に必要最小限に厳選してください。



自家用車での
避難は控えて

警戒レベル4「避難指示」が発令されたら、自家用車での避難は控えてください。緊急通行車両が通る際の妨げとなり、大渋滞の原因にもなります。また浸水すれば車両が故障し大変危険です。



避難ルートも要チェック
地域で助け合おう

徒歩で避難するときには注意が必要なのは、避難経路です。風雨が強くなると、普段通る道でも安全とは限りません。川沿いや地下歩道などは避け、できるだけ広い道を選ぶなど、事前にルートを確認してください。

また、単独行動は避け、近所の人と集団で行動し、助け合って避難しましょう。



避難ルートは家族や近所の人と共有して（左）。避難所は混雑する可能性も（右）



CHECK

感染症リスク高まる
できるだけ各自で対策を

避難所は多くの人で混雑し、また避難者の疲労も蓄積するため、感染症まん延のリスクが高まります。体調管理に気を付け、感染対策を取るようになってください。

☑ 体調管理

- ・いつも以上に体調管理
- ・不調時はためらわず申し出る



☑ マスクや手指消毒

- ・基本は手洗いと手指消毒
- ・マスク着用



☑ 十分な水分補給

- ・夏は熱中症リスクも回避

CASE3

条件合えば**在宅避難**も選択に
長期避難への備えは必須

長期孤立を
考慮して

自宅に留まる
在宅避難も検討して

浸水地域でも一定の条件が合う場合は、自宅に留まることも可能です。一定の条件とは、①家屋などが氾濫の影響で倒壊の危険がないこと②居住する部屋が浸水する深さより高いこと③水・食料などの備えが十分できていることです。少しでも不安な場合は、浸水の恐れのない避難所などへ避難してください。



これも必要やね



ローリングストックで

淀川が氾濫すれば、3日～2週間、孤立する場合があります。ライフライン（水道、電気、ガス、通信など）が使えないことを想定し、飲料水や食事、トイレ、電源の確保も検討してください。普段使っているものを少し多めに買い置きしておき、使った分だけ買い足すローリングストックも有効です。

ストック例

水（1人1日約3L）、十分な食料、懐中電灯、カセットコンロ、簡易トイレ、ドライシャンプーなど

家の中でも注意が必要
自宅周りを補強して待機

台風接近時などは、物が飛んできて窓ガラスが割れる場合があります。また台風が直撃しているときは雨戸やカーテンを閉めて、窓から離れた場所で過ごすようにしてください。



Advice

一度やってみて
自宅で避難訓練



ライフラインがストップする中、在宅避難にはどんな備えが必要でしょうか。身をもって確かめるため、自宅での一日避難訓練がおすすめです。ぜひチャレンジしてみてください。

- ①備蓄品を食べて好みを確認する
どの食べ物が食べやすいか、作りやすいか、実践が大切です。
- ②電気が使えない生活をしてみる
停電が発生しても情報収集が大事。インターネットが使えない場合も考えておきましょう。
- ③トイレにもチャレンジ
水が出ないとき、トイレが大変。簡易トイレも活用してみてください。

CASE4

最寄りの**できるだけ高い所**へ
命を守るために

緊急安全確保
急いで！



逃げ！

早く高い所へ

逃げ遅れた人は
少しでも高い所へ緊急退避

淀川の警戒レベル5「緊急安全確保」が発令された場合や、河川の氾濫が生じた場合は、直ちに命を守る行動を取ってください。長距離の移動は危険です。屋外に出ると危険な場合は、今いる建物内の少しでも高い所へ退避してください。



平成25年台風第18号の豪雨による淀川の出水状況



洪水時緊急安全確保施設
新たに指定

市の南部地域の小中学校を「洪水時緊急安全確保施設」として指定しています（下記）。氾濫が迫ったときに避難ができておらず、建物内での避難も不可能な場合に利用してください。ただし緊急時の退避施設のため、職員などはいません。

洪水時緊急安全確保施設の一覧

- （小学校）
五領、上牧、北大冠、大冠、松原、冠、南大冠、竹の内、高槻、桜台、西大冠、若松、芝生、如是、丸橋、五百住、寿栄、柳川、玉川、三箇牧、柱本
- （中学校）
五領、第六、冠、第十、第一、城南、第三、柳川、第七



洪水時緊急安全確保施設（右記）のピクトグラム。各学校の避難所看板に表示します

CHECK

過去の風水害の教訓

高槻では過去に大きな風水害の被害を受けています。過去の被害を教訓として、災害に備えましょう。

- ☑ 大正6年大塚切れ
淀川決壊、約15,000戸
浸水・家屋流失被害
- ☑ 昭和28年台風第13号
芥川、女瀬川、檜尾川決壊。全壊約300戸、
浸水被害約8,000戸
- ☑ 昭和42年北摂豪雨
女瀬川決壊。浸水被害約7,000戸
- ☑ 平成24年8月豪雨
最大で時間降雨量110mm
の豪雨。床上浸水247戸、
床下浸水597戸
- ☑ 平成30年7月豪雨、台風第21号
7月の集中豪雨でがけ崩れ12カ所、道路冠水16カ所。9月の台風第21号で北部山間地域で大規模な倒木被害

災害が激甚化 対策は早めの行動と準備

■近年の異常気象

線状降水帯の発生で雨量増

(實本) 災害につながる気象現象としては、積乱雲が重要です。入道雲が発達して、雷を鳴らし、雨を降らせる雲ですね。温暖化で、積乱雲が発達しやすい状態、つまり大気の状態が不安定になることが増えています。

台風、線状降水帯、局地的大雨などは、すべて積乱雲でできています。1つの積乱雲の寿命は30分程度で、雨を降らせると、雨と共に冷たい空気を吹き下ろし、消滅します。これだけで終われば、夕立程度で済みます。

(太田) ところが、周りに暖かく湿った空気が次々に流れ込んで来ると、雨と共に吹き下ろした冷たい空気が周りの暖かい空気を持ち上げ、次の積乱雲が発生するのです。最近、よく聞かれるようになった線状降水帯は、このようにして連続的に発生した積乱雲が次々に雨を降らせます。同じ場所で長時間、雨が降り続くことになるわけですね。

■淀川氾濫の前に

支川があふれる可能性も

(實本) これが淀川流域に重なると、淀川の増水を引き起こしかねません。淀川の増水によって合流し

ようとする支川の水がスムーズに流入できなくなる「バックウォーター現象」が発生すると、支川の水かさが増します。昭和28年の台風では、この現象で支川が氾濫しました。淀川の水位が上昇すると、芥川、女瀬川、檜尾川などの支川が先に氾濫する危険もあります。

一方、集中豪雨が支川の流域で発生した場合にも、淀川よりも早く氾濫することがあります。平成24年8月の集中豪雨は、雨域が東西に広がって局地的大雨が発生。床上浸水など、市内で浸水被害をもたらしました。もう少し規模が大きければ線状降水帯となり支川が氾濫していた現象でした。

■淀川の氾濫では2階も浸水 山間部は土砂災害に注意

(太田) 淀川が氾濫した場合、広範囲での浸水が想定されます。また、浸水する深さが5mを超える地域も想定され、2階の部屋も浸水してしまいます。

一方で、土砂災害を引き起こすこともあります。土砂災害には、がけ崩れなどの斜面崩壊や地滑り、また谷筋に沿って発生する土石流などがあります。市北部には広く山間部が広がっていますので、土砂災害警戒区域付近に住む人は早めの避難を心掛けてください。居住地が孤立してもしばらくは耐えられる準備をしておくことも大切です。



気象防災アドバイザー対談

高槻の豊かな自然を守ると同時に、自然のリスクも知ってほしい

以前住んでいた思い出深い高槻。災害による犠牲者ゼロを目指しましょう

じつもと
實本正樹さん (左)

山や街道歩きで空や雲の様子を撮影するなど、日頃から気象状況を注視している

太田佳似さん (右)

雲と自然に関する話を通して、気象の面白さを伝える活動をしている

気象防災アドバイザーとは

気象予報士の有資格者で気象庁が育成認証した防災の専門家。自治体向けに専門的知見を生かして助言を行います。市ではこの度、マニュアルの策定などに対し支援を受けています。

Advice

- ①避難は親戚、知人宅でも可
- ②浸水する中での避難は危険
- ③土砂災害からも早めに避難



浸水している場合、外に出て避難することは危険です。そうなる前に分散避難や避難所への避難をしてください。

■避難は正しい防災情報から 早めの避難行動を

(實本) 大雨時に避難が必要となる人は、基本的に浸水想定区域内や土砂災害警戒区域付近にお住まいの人です。避難を判断するきっかけは、防災情報(右記)から。市や気象庁の情報サイトがおすすめです。

大切なのは、早めの行動です。特に、危険な区域では、警戒レベル3(高齢者等避難)が発令された時点で避難を検討してください。遅くとも警戒レベル4(避難指示)では必ず避難を決断してください。警戒レベル5(緊急安全確保)が出てからでは屋外への避難は危険です。台風などが接近して風雨が強まる前や、明るいうちに、複数人で避難することが望ましいです。

(太田) 避難先は、市の指定された避難場所でもなく、安全な場所に住む親戚、知人、あるいはホテルなどでも良いです。事前に考え、親戚・知人には声掛けしておきましょう。

■バイアスにとらわれず 平時の準備が重要

(太田) 災害が起こってから慌てても間に合いません。平時にどれだけ心と物の準備ができていたかが全てです。

ハザードマップで自宅の危険性を把握する、防災グッズを準備しておく、防災講座などに参加し知識や意識を高めるのも良いでしょう。マイタイムラインを家族と共に作って、いざというときの避難先、連絡方法を決めておく。そして何より、こうなったらとにかく避難するという「避難スイッチ」を決めておくことが大切です。

(實本) 人は自分だけは大丈夫と思いがちですね。これは、安全性(正常性)バイアスと呼ばれる心理です。今、自分が普通に生活してられる、これまでに被災したことがないなど、この心理は誰もが持つ傾向がありますが、数十年に一度、数百年に一度の災害が必ずやって来るのです。バイアスにとらわれず、しっかりと備えを心掛けてほしいです。

- ①河川の水位にも注意して
- ②警戒レベル4までに避難を決断
- ③避難は声を掛け合って徒歩で



防災情報をしっかり確認し、避難のタイミングや避難先を決断してください。家族や近隣の人にも声を掛けて協力しましょう。

避難情報+α

防災情報の取得

いつ、どこに避難するか、判断するためには素早く正確に情報を得ることが重要です。入手方法を紹介します。

●スマホで確認する

防災ポータルサイト「高槻防災」なら、さまざまな防災情報にアクセスできます。スマホなどのホーム画面に追加しておく、災害時にすぐにご利用できます。

アクセス可能なリンク一覧

- ①市HP
- ②市LINE公式アカウント
- ③市防災情報X
- ④緊急災害情報
- ⑤水害・土砂災害ハザードマップ
- ⑥地震ハザードマップ
- ⑦気象・防災情報※
- ⑧市HP内の防災情報サイト
- ⑨緊急避難場所・避難所
- ⑩防災関係連絡先
- ⑪防災関係HP

ダウンロードはこちらから▶



※気象庁のキキクル

浸水キキクル、土砂キキクル、洪水キキクルと災害ごとに分けられ、それぞれの危険性が、場所ごと、あるいは河川ごとに黄色(警戒レベル2)、赤色(同3)、紫色(同4)で視覚的に把握できます。「高槻防災」→「気象・防災情報」→「キキクル(危険度分布)」でたどれます。

●スマホ以外で確認する

・緊急災害情報伝達サービス

障がい者や75歳以上単身世帯などの人を対象に防災行政無線で放送する緊急災害情報を固定電話やFAXでお知らせ。随時窓F郵で危機管理室へ(所定の様式)

・NHK総合テレビのdボタン

避難情報などをリモコンの「dボタン」で確認

・J:COM防災情報サービス

防災行政無線の内容を自宅に設置した専用機器からお知らせ(J:COMへ申し込みが必要)

・防災行政無線電話サービス/Tel674-7476

放送内容を再生します
(放送終了後48時間以内、通話料必要)